# 2022年度 事業･活動報告

# 2022年度 収支決算報告

はじめに

2022年度は、新しい資本主義の議論の結果として、社会のお金の流れを進化させていくという大きな方向性が政府から示されるというポジティブな側面の出来事がありました。一方で、法人等による寄附の不当な勧誘防止等に関する法律や民間非営利団体のファンドレイジングに関する議論も行われた年度でもありました。私たちも専門ファンドレイザーの認証制度の開始や新たな社会貢献教育に資するカードゲーム「from Me」の発表など、新しい事業を推進し、エコシステムの皆さんに深化と広がりをもたらす取り組みを進めました。

2023年度は、経済界でも寄付や社会的投資を促進することの重要性が認識され、財政赤字や少子高齢化の状況の中で、民から民へのお金の流れを加速させる大きな傾向が不可逆な状況になってきたと考えています。創設から14年が経ち、設立当初には想像できなかったような「追い風」を感じます。そして、この機会を未来のために活かさなければなりません。

そうした中で、私たちは会員、ファンドレイザー、ソリューション提供企業、財団、政府など、このエコシステムにかかわるすべての皆さんと共に前進したい、と考えています。2023年度は、協会として、グローバル連携による社会イノベーションを本格的に開始します。また、研修のオンライン化やシステム化を進め、学びと成長の機会を多様に提供できるプラットフォームとなっていくと共に、ファンドレイザーや社会貢献教育ファシリテーター、カードゲーム「from Me」公認ファシリテーターの皆さんがさまざまな機会を得てさらに活躍し、輝ける状態を実現したいと考えています。共感をベースとした社会イノベーションの連鎖が社会の至る所で当たり前のように生まれる時代に向けて、引き続き皆さんとともに歩み続けます。

2023年6月

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会
代表理事 鵜尾 雅隆

# 2022年度　事業・活動報告

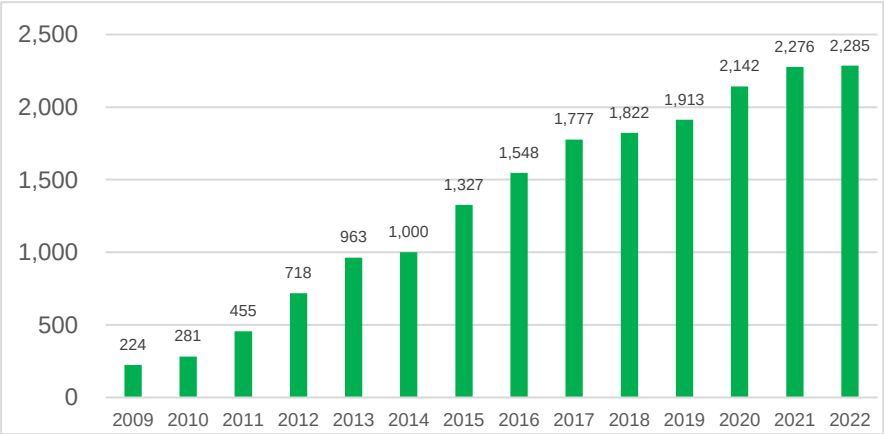
2022年度ハイライト

- 私たちを取り囲むソーシャルセクターのエコシステムの進化の中で、多様化するファンドレイザーのキャリアを後押しする目的で「専門ファンドレイザー認証制度」を立ち上げ、初年度のべ91名の専門ファンドレイザーが4分野にて誕生した
- 社会貢献教育のリブランディングを行い既存プログラムの新規展開、寄付カードゲームの開発が進んだ。
- 文化庁からの委託を受け、博物館経営に資する資源の調達に係る実証事業等を調査研究することで、我が国の博物館における持続的な経営基盤強化を図るための事業モデルについて検討

2022年度、日本ファンドレイジング協会は、寄付・社会的投資が進む社会の実現に向け主体的に動いていく人たちとの関係を増やし、価値を共創していく年とし、そのために、各事業において価値に向き合い、創造をしていくことを目指してきた。関係性を築いてきた方々との接点を深めるため、対話の持ち方や接点の築き方も各事業の中で試行錯誤しながら進めてきた。新たな改革にも多く取り組むことができ、コロナ禍が一定の終結をし、新しい動きが求められる2023年度の取り組みに向けての大きな足がかりをつくる1年となった。

◇数字で見る日本ファンドレイジング協会の成長

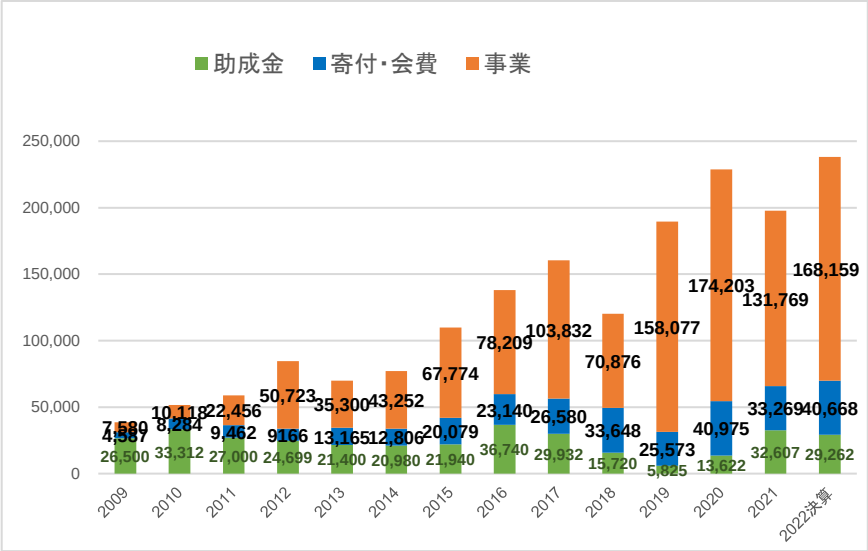
会員数の推移



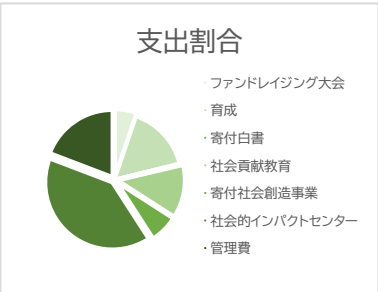

ご賛同いただいている会員数は増加の傾向にあり、運営会員60名、賛同会員2, 173名、法人会員 51団体となった。

2022年度は4社にスペシャルパートナーとしてご支援をいただいた。

継続的な成長を実現




2022年度は育成での事業の成長、社会貢献教育での受取り助成金の増額等で、堅調な成長を遂げ、2020年度の業績を上回る回復基調となった。



## エコシステムプロジェクト

◇2022年度目標

- ファンドレイザーの様々な挑戦とその応援が循環するエコシステムの形成に向け、新たな分野での挑戦をプロジェクトとして生成
- 日本で初となる「専門ファンドレイザー」の認証制度としての確立

◇実績

- ファンドレイザーの挑戦と応援の循環をさらに加速させるため、2022年度のエコシステムプロジェクトは公募とし、若手ファンドレイザーによる、2つのプロジェクトを採択した（表1参照）。
- 各プロジェクトでは、関係者とのヒアリングや協議、イベント等を通じて広くエコシステムから知を取り入れ、成果をまとめ、発表の一環として2月に開催されたFRJ2023でそれぞれセッションを開催した。2つのプロジェクト共に、今回の成果をもとに、ファンドレイザーのキャリアを考えるイベントやスキルを磨く研修を今後開催していく。
- 2021年度のエコシステムプロジェクトの継続として、4分野（伴走支援、大学、中間支援、社会福祉）において、各領域のファンドレイジングを長らく牽引してきたメンバーとともに専門コースを開設。領域に特化した専門スキルを有する人材育成のための専門ファンドレイザー研修を実施し、2022年度は基礎研修を255名、応用研修を177名が修了した。
- 専門研修受講者のうち、日本初となる専門ファンドレイザーには延べ91名が申請をし、認証され、FRJ2023並びに協会HPにて発表が行われた。（https://jfra.jp/news/44726 ）

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- 認証された専門ファンドレイザーをはじめ有資格ファンドレイザーが、エコシステムの中で力を発揮し、活躍をしていく場の提供を行うと共に、その多様な活動の可視化が求められる。
- 専門ファンドレイザー研修を育成事業と連携させ、ファンドレイザーがキャリアを構築していく中で、専門ファンドレイザー認証の取得をシームレスに捉えることができるような設計が必要である。
- 2021年度、2022年度に生まれたエコシステムの動きを継続的に活性化させていく必要がある。

FRJ2023での成果発表セッション

## ファンドレイジング・日本2023（FRJ2023）

◇2022年度目標

- 社会環境の変化に沿ったFRJの開催形態として、より一層の進化を志向
- 新しい学び、知識の深化が進むセッション・コンテンツを企画し、中期的な目標・方向性を描き、実施

◇実績

- 3年目となるFRJでのオンラインでの学びとつながりを、41日間の会期で提供し、ファンドレイジングに関する最新の動向や、日々の試行錯誤から生まれた知見や事例の数々を、ライブセッション（19）、オンデマンドセッション（44）合わせ、63のセッションとして提供を行った。
- 参加者の自主企画を実施できる機会として「みんなの広場」を設け、34のセッションが実施された。双方向の学びとなるダイアログが中心のセッションが多く、参加者が探しやすい、参加しやすいよう情報提供方法の改善を実施した。
- 初参加者向けの「ファーストカマーオリエンテーション」の実施、参加者の交流のための新しいツールの採用等、前回の参加者からの意見を基に、オンライン上で学びを深め、偶然の出会いが起こる環境の提供を行った。
- 協賛パートナーは20となり、うち7社からはファンドレイジングに関わるサービス、ソリューションの内容のセッションの提供をいただいた。
- 806名にご参加いただき、「FRJの学びを団体内で共有したい」、「企業からの寄付によって生まれたインパクトの可視化に取り組んでみたい」、「NPOの設立に向けて、学んだことをすぐに実践してみたい」等様々な感想をいただくことができた。総合満足度は10段階評価で8.4となった。

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- 社会環境を考慮し、対面での学びやつながり、偶発的な出会いの場の創造を志向し、かつオンラインでの学びの価値も考慮した、最適な開催形態についての検討が必要である。
- チャレンジが可視化され応援の輪ができる、新しいものが生まれ育む場といったFRJの価値について、新しい環境での実現の検討が望まれる。

## ファンドレイザー育成事業

◇2022年度目標

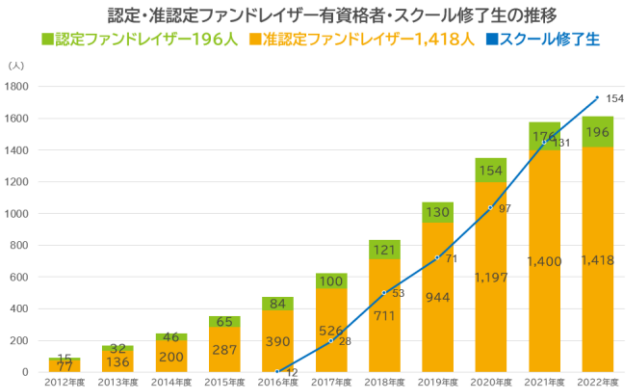
- ファンドレイザーのキャリアの多様化に対応した学びとつながりの場の形成
- 社会状況の変化を捉えた「認定ファンドレイザー必修研修テキスト」の改訂への取り組み

◇実績

- 認定ファンドレイザー・准認定ファンドレイザーの必修研修および選択研修をZoomを活用したライブ形式で実施した。講師には実践者を迎え、座学だけでなく、チャットやブレイクアウトセッションを活用した参加者同士の学び合いの場を提供した。准認定ファンドレイザー必修研修（1日）には計506名が参加し、満足度は5段階評価で4.7となり、認定ファンドレイザー必修研修（2日間）には37名が参加し、満足度は5段階評価で4.5となった。
- 認定・准認定ファンドレイザー検定試験はCBT形式で実施した。認定ファンドレイザー検定試験は27名が受験し、20名が合格、准認定ファンドレイザー検定試験は303名が受験し、231名が新たに資格を取得し、有資格者は1,646名にまで広がった。2022年10月には、資格保有者を対象にした試験対策アンケートを実施し、合格経験者からの勉強時間や勉強方法など、これからファンドレイジングを学ぶ方にとって有益な情報を公開することができた。
- ファンドレイジング・スクールでは、アルムナイメンバーに事務局業務を委託。また、アルムナイメンバーがメンターやリアルケーススタディ団体として参加し、7期生を応援し、結果として、入学した23名の生徒全員が修了することができた。さらに、アルムナイを中心に集まった寄付により、今年度は7名に奨学金を提供することができた。また、アルムナイの活動を支援するための寄付を原資に、アルムナイ同士が相互に連携し、ネクストアクション創成プログラム「Beyond ミーティング」を開催した。
  ※「Beyond ミーティング」とは、and Beyond カンパニーが公開している挑戦を応援するミーティング。
- 多様な学びとつながりを生み出す新たなラーニングハブの創出を目指し、システムのリニューアルに着手。これにより、研修のお申し込みや会員の入会・更新手続きにおいて発生していたデータベースの更新作業や領収書の発行業務などの手続きを自動化し、研修の充実やつながりの機会を創出するための基盤を整えた。

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- 2022年度に着手した「認定ファンドレイザー必修研修のテキスト」の検討を引き続き行い、普遍的な内容は継続し、最新のファンドレイジングの手法や知見を取り入れた改訂が必要である。
- 一人ひとりのファンドレイジングに関する学びや情報、そしてつながりのニーズに応じて学びを提供するラーニングシステムの構築が必要となる。
- ファンドレイジングが単なるお金集めではなく、社会を変えるプロセスであることを本質的に理解することや、ファンドレイザーが倫理を遵守し、誇りある職業として確立するために、いかに、各組織内での理解や社会全体での認知の向上を図っていくか、の検討が必要である。



## 寄付研究・寄付白書事業

◇2022年度目標

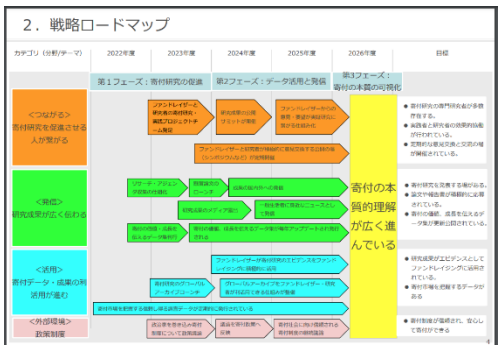
- 次回寄付白書発行（2025年予定）までの期間で、寄付白書の内容やあり方の再検討の実施
- 寄付のリブランディングのための寄付研究の促進

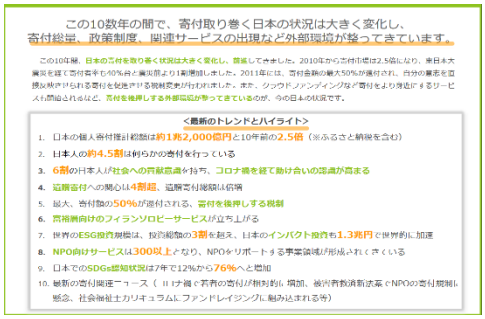
◇実績

- 寄付白書発行研究会メンバーへの出版後のヒアリングを行い、寄付白書のあり方および寄付研究の促進のための検討と方向性を固めた。
- 寄付研究の促進拡大のための検討会を2回開催し、方向性についての意見の聞き取りを実施した。また、外部パートナー1名の参加を得て、寄付研究の促進による寄付の本質的理解が進むプロジェクトを立ち上げた。
- 寄付研究促進のための戦略ロードマップの策定と寄付市場予測レポート「日本の寄付の現状2022」の制作と発表を12月の寄付月間2022および2月のFRJ2023を通じて行い、次年度以降の計画と道筋を発表した。（https://jfra.jp/research）

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- 寄付研究者とファンドレイザーとの協働の場の創出、寄付研究発表の場づくりと社会への情報発信が求められる。
- 寄付研究アーカイブの設置と寄付白書の定期発行の検討が求められる。





## 寄付市場創造 - 社会貢献教育

◇2022年度目標

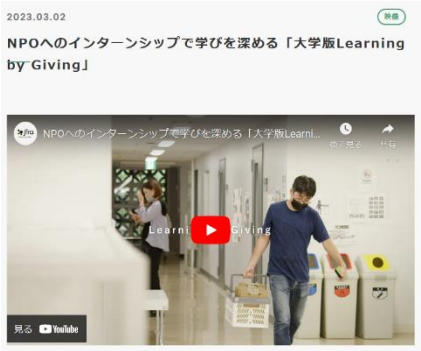
- 社会貢献教育人材(学生・教員・ファシリテーター・NPO)の育成と実行力あるコミュニティの形成
- 教材コンテンツの新規開発と既存プログラムの深化と定着
- 社会貢献教育のブランディング

◇実績

- 新教材、カードゲーム「from Me」の開発に着手し、新事業立ち上げの準備をスタートした。
- β版教員向けLearning by Giving(LbG)研修を行い、教員へのノウハウ提供に着手。群馬、大阪、福岡の各中学校・高校で実施提供した。
- 大学版LbGを武蔵野大学でパイロット実施。NPOへのインターンと組み合わせたモデルを実現した。
- ミャンマーと日本の高校生がLbGを同時に体験し交流するLearning by Giving for Twoを実施し、LbGの展開の可能性を広げた。(https://www.youtube.com/watch?v=B4KmPAlWb0Y&t=1s)
- 社会貢献教育ポータルサイトを通じて、高校生・大学生の取り組みの発信の機会を提供した。https://jfra.jp/ltg-portal/index.html )
- 1年を通じて42校・135教室・4,018名の児童生徒にプログラムを提供することができた。
- 三菱みらい育成財団、日本寄付財団、Water Doragon Foundationと複数財団からの助成を得て、チャレンジングな取り組みが出来たことに加えて、個人大口寄付も数件受けることができた。

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- 社会貢献教育に対して想いとスキルをもった教員の輩出と連携を進め、同じく想いとスキルをもったファシリテーターの輩出の仕組みを作るニーズがある。
- 社会貢献教育を受けた中高大学生がアクションを起こすためのサポートを行っていく。
- 子どもたち、教員・ファシリテーター、支援者が一堂に介して集い、実践共有と交流を行う場(カンファレンス)の設定が必要とされている。
- 社会貢献教育ポータルサイトに事例や教材が豊富に蓄積されていくよう推進していく。
- 多様な個人からの継続的な支援を得る仕組みを作っていく必要がある。
- 法人と連携したプログラムの開発を行う。



## 寄付市場創造 - 遺贈寄付 / 寄付月間

**遺贈寄付の推進**

◇2022年度目標

- 全国レガシーギフト協会の運営を通して、継続して日本社会での遺贈寄付の広がりを増やせるよう寄付者へのアプローチを強化
- 当協会としては、受遺団体として遺贈寄付の受け入れの体制整備と、関係者へのアピール活動を実施

◇実績

- 3年目となる遺贈寄付の啓発キャンペーン「遺贈寄付ウィーク2023」では、新しい試みとして省庁からの後援名義取得、専門家からの賛同の取得、遺贈寄付を実際に準備したご本人へのインタビュー動画の制作等に取り組むことができた。
- 全国レガシーギフト協会では、新規加入の加盟団体と現地にて遺贈寄付に関する研修を行うことにより、加盟団体との関係強化ができると共に、加盟団体の地元での遺贈寄付推進の支援を行うことができた。

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- 中間支援団体としての全国レガシーギフト協会からの寄付者へのアウトリーチには限界があるため、協会本来のターゲットを見極める必要がある。
- 当協会の財源として、遺贈寄付の受入活動、体制を強化していく必要がある。

**寄付月間**

◇2022年度目標

- 10周年を見据え、中長期的な視点で組織・事業・財源の基盤を強化し、より大きなインパクトを創出できる準備を行うこと
- JFRAの事業との接合（有資格者、スクールアルムナイ、社会貢献教育、寄付白書、FRJなど）を強化

◇実績

- 当協会との事業接合を意識的に行い、協働企画イベント（寄付研究促進プロジェクト）を実施し、意識啓発を行った。
- 当協会、寄付月間、双方での法人連携を促進した。

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- 10周年に向けて多様な主体の巻き込み、変化を生みだしていく動きを作る。

**その他の動き**

◇「法人等による寄附の不当な勧誘の防止等に関する法律」

- 2023年1月5日に「法人等による寄附の不当勧誘の防止等に関する法律」が施行されたが、2022年11月から、当法律の制定に向けて動きはじめた政府に対して、非営利団体としての寄附一律規定への懸念や慎重な議論の要求のため、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）、特定非営利活動法人新公益連盟、特定非営利活動法人セイエン、特定非営利活動法人日本NPOセンターと協働し、署名活動の実施や政党によるヒアリング会への参加等を行い、3回にわたって非営利団体に対しての報告会を開催した。
- 法律施行後も、管轄省庁である消費者庁、法律専門家等との勉強会を継続し、法律の解釈、非営利団体への影響等の予見を進め、情報提供を行った。

## 社会的インパクトセンター

◇2022年度目標

- 社会的インパクト評価・マネジメントに関するエコシステムの確立
- JFRAが取り組むべき持続可能性の高い事業モデルの開発

◇実績

- 休眠預金等活用事業の資金分配団体に対する評価支援業務をはじめ、こども宅食、国際協力NGO等の評価支援業務を計11件受託し、社会的インパクト評価／マネジメントの実施を支援した。
- 省庁・行政案件としては、岡山市による「SIBを活用した生涯活躍就労支援事業」及び文化庁による「令和4年度博物館機能強化推進事業」の2件を受託した。
- 一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ（SIMI）を通じて、金融庁・GSG国内諮問委員会共催「インパクト投資に関する勉強会」に設置されたIMM（インパクト測定・マネジメント）ワーキンググループ・デット分科会の事務局業務、インパクト志向金融宣言の事務局業務、金融機関向けインパクト・アナリスト研修の運営、SDGインパクト基準研修の実施、Social Impact Day 2023の開催等を実施。資金提供者・事業者・非営利組織等における社会的インパクト評価・マネジメントを推進するエコシステムの構築に取り組んだ。
- 法人連携チームを通じて、ファンドレイジング・事業計画策定×社会的インパクト・マネジメント研修3件を提供、各研修の評価を実施した。

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- 社会的インパクトセンターの提供価値やサービスメニュー等が外部から見えづらい、わかりづらい状況があるため、それらを分かりやすく可視化し、情報発信等を積極的に行なっていく必要がある。
- 案件の増加に伴い事業実施体制の強化が必要である。体制強化においては、エコシステムメンバーへ積極的に働きかけ、プロジェクトメンバーとして参加していただくよう努める。

## 組織運営

**広報（宮下）**

◇2022年度目標

- ファンドレイザーというキャリアの社会的認知度を向上するための情報発信

◇実績

- メディアからの取材に積極的に応じ、寄付やファンドレイジングの理解を広げる活動を行った（詳細はP.13のメディア掲載実績を参照）。
- プレスリリースを合計8本発信し、ファンドレイジングのキャリアの多様化や大学でのフィールドワークを通じた学び、特定分野での実証事業の成果などを発信した。
- ファンドレイジング・ジャーナルにおいて、「自由にあなたらしいNPOキャリアを描く」というテーマで新連載企画を開始し、7人のワカモノ人材へのインタビューを通じて、NPOとの様々な関わり方を可視化した。

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- ファンドレイジングの領域の幅広さや多様なキャリアの可能性を、分かりやすくかつ本質的な理解をどうやって広めていくかを追究していく必要がある。

**会員**

◇2022年度目標

- 新チャプター制度を活用し、多様な関心領域の集まりの創出
- オンラインを活用した、全国の会員の皆さんと気軽に交流できる機会の創出

◇実績

- 全12のチャプターの代表との協議の結果、新たに改定されたチャプター5か条に基づいて運営を開始した。新たなチャプター5か条は、学びやつながりがオンライン化される中で、各チャプターがそれぞれの目的に応じて、より柔軟に活動できるようになった。それにより、各チャプターは各地域やテーマの発展やチャプターの活性化に寄与するための活動費を上限はあるものの、その都度申請し、利用することができるようになった。各チャプターではファンドレイジングや社会貢献教育プログラムに関する勉強会が開催された。
- 会員限定イベントのスピンオフ企画として、「金融出身ファンドレイザー集まれの会」を実施し、同じバックグラウンドをもつ方同士の交流の場ができた。

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- 会員一人ひとりが自由に活動や勉強会を企画できるコミュニティの土壌をどうやって作るかが求められる。

**法人連携**

◇2022年度目標

- 既存法人（スペシャルパートナー、法人会員、協賛、委託元法人など）とのそれぞれの関係性の維持強化
- 相談からサービス提供の体制までを事業部門と連携した流れの確立
- 法人連携の①組織力強化研修（B2B）、②協働事業創出（スペシャルパートナー、法人会員）を深化させ、事業間の有機的な法人連携を追究

◇実績

- スペシャルパートナーとの協働事業として、2022年度には ①寄付研究事業として、寄付市場予測レポートの制作、②寄付月間の当協会企画として、「著名人の寄付」パッケージの発表、③認定ファンドレイザーへのお祝いメッセージの提供、④FRJ2023でのファーストカマーオリエンテーションの復活の4つの活動を実施することができた。
- 法人会員の皆さんとの定期的なコミュニケーション活動をまずはメルマガからスタートさせた。
- 法人連携事業としては、当協会内の事業横断型で、情報の連携、協働での研修提供を行い、組織内一体としての動きがとれるような体制を構築した。

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- 法人会員の皆さんへの付加価値のご提供のさらなる探求が求められる。
- 当協会との連携が強化されるようなパートナー制度の考案が必要である。

**総会・理事会開催**

◇実績

- 当協会の総会、理事会については、＜表4，5＞の通り開催した。
- 2022年度から、理事に役割を持っていただき、「業務担当理事会議」（毎月開催）、「働き方改革担当理事会議」（賞与決定時、昇給決定時に開催）の定期開催を行った。
- オンラインでの理事会開催が続くため、理事同士、また理事と事務局スタッフ間での、協会の運営や、協会を取り巻く環境についての本質的な課題に対する対話を進めるため、2回の理事懇談会をハイブリッド形式で開催し（7月、9月）、意見を聞き合い、考えを深める機会とした。

**事務局運営**

◇2022年度目標

- 2021年度に改訂・新設した規程・規約の実行と定着化
- 積極的な採用活動、並びに多様な働き方の推奨
- 昨年度に引き続き拡大事務局化を進め、TeamJFRAとして多様な方々との協働をすすめ、エコシステム全体の成長への寄与
- あらゆる業務の中でのコンプライアンスの遵守と、意識高いオペレーションの推進

◇実績

- 2021年度に改訂された就業規則、給与規程、人事規程に基づき、組織が健全に運営され、スタッフの評価、昇給・昇格も規程にそった運用がされるよう、働き方改革担当理事の助言を受けながら実施した。また、年度内に、多様な働き方をする4人のスタッフを新規に採用し、チームに加わってもらった。
- 年2回、コンプライアンス委員会を開催し、組織内での事象の共有、対応等意識の向上を図った。
- 拡大事務局化のTeamJFRAメンバーとは、毎月第一月曜日に、当協会の活動を知り、担当者メンバーを知ることを主目的とした「エンジン会議」を実施。毎回、旬なトピックスを担当者が説明し、参加メンバーがテーマの理解を深めると共に、メンバー同士の理解も促進される機会となっている。

◇エコシステム構築に向けた今後の課題

- 組織のスタッフ、またTeamJFRAメンバーが顔を合わしてのコミュニケーションを取る機会がなく、自然発生的な事業間のコラボレーションや助け合いが起こりにくくなってきているため、意識的な対面でのチームアップの創出が必要である。

<表1>2022年度にエコシステムプロジェクトとして採択したテーマとリーダー

| テーマ | リーダー（敬称略） |
|---|---|
| 社会を変えるファンドレイザーを育成するキャリア＆スキルマップの制作 | 久保 匠（日本ファンドレイジング協会 法人連携推進パートナー）<br>徳永 健人（READYFOR株式会社 基金事業・プラットフォーム化推進部 リードキュレータ フィランソロピーアドバイザー）<br>川野辺 雪菜（フリーランスファンドレイザー） |
| ソーシャルセクターにもたらす1on1ファンドレイジングの未来　最前線で寄付者と団体をつなぐプロセス設計 | 大西 冬馬 （日本ファンドレイジング協会 エコシステムプロジェクト 1on1ファンドレイジングプロジェクトリーダー） |

<表2> 地域、テーマ別のチャプターとその代表ならびに役員等（2023年3月31日現在）

| チャプター名 | 代表ならびに役員等（敬称略） |
|---|---|
| 北海道チャプター | 共同代表：奥山 大介（北海道／認定講師・認定ファンドレイザー）、公益財団法人札幌交響楽団<br>共同代表：佐藤 ゆみ子（北海道／准認定ファンドレイザー）、NPO法人コンカリーニョ 理事<br>共同代表：橋本 正彦（北海道／認定ファンドレイザー）、community HUB 江別港　代表<br>共同代表：牧 伸介（北海道／認定ファンドレイザー）、一般社団法人ソーシャルコミュニティデザイン協会 専務理事 |
| 東北チャプター | 共同代表：石渡 賢大 （宮城県／認定ファンドレイザー） 一般社団法人日本カーシェアリング協会<br>共同代表：小野寺 崇 （宮城県／准認定ファンドレイザー）<br>共同代表：渡邉 桂子（山形県／准認定ファンドレイザー） NPO法人フレーム・ラボ 代表理事 |
| 静岡チャプター | 共同代表：木下 聡 （静岡県／認定ファンドレイザー）、フリーランスファンドレイザー<br>副代表：千野 和子 （静岡県／准認定ファンドレイザー）、公益財団法人ふじのくに未来財団<br>副代表：鹿又 正光 （静岡県／准認定ファンドレイザー）、BOWEN |
| 東海チャプター | 共同代表：西村 健（愛知県／認定ファンドレイザー）、名古屋市地域コミュニティ活性化支援員<br>共同代表：山崎 恵美子（愛知県／准認定ファンドレイザー） |
| 関西チャプター | 共同代表：岡本 卓也 （京都府／准認定ファンドレイザー）、有限責任事業組合まちとしごと総合研究所<br>共同代表：河合 将生（大阪府／認定講師・准認定ファンドレイザー）、office musubime<br>共同代表：米原 裕太郎（京都府／准認定ファンドレイザー） |
| 中国チャプター | 共同代表：船崎 美智子 （山口県／認定ファンドレイザー）、ライフスタイル協同組合　代表理事<br>共同代表：中村 隆行 （広島県／認定ファンドレイザー）、特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター　代表理事 |
| 九州チャプター | 共同代表：大倉 慶子（福岡県／准認定ファンドレイザー）、社会福祉法人福岡市社会福祉協議会<br>共同代表：日隈 諒（大分県／准認定ファンドレイザー）、日田市地域おこし協力隊<br>共同代表：宮原 美智子 （熊本県／准認定ファンドレイザー）、一般財団法人くまもと未来創造基金 |
| アートチャプター | 共同代表：奥山 大介（認定講師・認定ファンドレイザー）、公益財団法人札幌交響楽団<br>運営メンバー：伊藤 麻里子（認定ファンドレイザー）<br>運営メンバー：小室 敬幸（准認定ファンドレイザー）、一般社団法人Music Dialogue<br>運営メンバー：山田 心（准認定ファンドレイザー）、認定NPO法人芸術と遊び創造協会 |
| 全国福祉チャプター | 代表：久津摩 和弘（認定講師）、日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET理事長<br>副代表：池下 真也（准認定ファンドレイザー）、鹿児島県社会福祉協議会 生活支援部 副部長<br>副代表：公原 寿彦（認定ファンドレイザー）、愛媛県共同募金会 事務局長<br>顧問：早瀬 昇（認定講師・認定ファンドレイザー）、社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長<br>監事：相浦 圭太（准認定ファンドレイザー／税理士）、税理士法人TAパートナーズ 代表<br>監事：樽本 哲（准認定ファンドレイザー／弁護士）、樽本法律事務所 代表 |
| 大学チャプター | 共同代表：吉田 富士江（認定ファンドレイザー）、株式会社福笑楽美／大阪大学連携ファンドレイザー<br>共同代表：久保 優子（認定ファンドレイザー）、ワイズリンク／元東京工業大学ファンドレイザー |

| | |
|---|---|
| | 事務局長:塚本 いづみ(認定ファンドレイザー)、セブンス・ステップ／元学校法人慶應義塾職員 |
| グローバルチャプター | 代表:五十嵐 豪(認定ファンドレイザー)<br>副代表:間辺 初夏(認定ファンドレイザー)<br>副代表:谷口 真菜実(認定ファンドレイザー)<br>ボードメンバー:塚原 真琴(准認定ファンドレイザー)<br>ボードメンバー:桃井 拓真(認定ファンドレイザー)<br>ボードメンバー:櫻井 祐樹(准認定ファンドレイザー) |
| 災害対応チャプター | 共同代表:上田 和孝(認定ファンドレイザー)、新潟大学工学部 准教授<br>共同代表:永井 美佳(准認定ファンドレイザー)、社会福祉法人大阪ボランティア協会　常務理事・事務局長<br>運営委員:橋本 正彦(認定ファンドレイザー)、community HUB 江別港　代表<br>運営委員:宮原 美智子(准認定ファンドレイザー)、一般財団法人くまもと未来創造基金　理事<br>運営委員:山﨑 庸貴(認定ファンドレイザー)、災害対応チャプター運営委員 |

＜表3＞スペシャルパートナー

協会との協働パートナーとして寄付市場形成に向けた様々な取組みを行ってきましたスペシャルパートナー

| **社名** | |
|---|---|
| お宝エイド | https://otakara-aid.com/ |
| 株式会社ファンドレックス | https://fundrex.co.jp/ |
| リタワークス株式会社 | https://ritaworks.jp/ |
| 株式会社トラストバンク | https://www.trustbank.co.jp/ |

＜表 4>2022年度通常総会

| **日時** | **出席者** | **附議事項/報告事項** |
|---|---|---|
| 2022年6月17日(金)<br>18:30-19:30 | 総社員(運営会員)数 68名<br>出席した社員数30名<br>(内訳本人出席21名、書面議決書出席9名) | 第1号議案(2021年度事業・活動報告)<br>第2号議案(2021年度収支決算報告)<br>第3号議案(2022年度事業・活動計画)<br>第4号議案(2022年度予算計画)<br>第5号議案(役員の選任および報酬) |

＜表5＞ 2022年度開催理事会

| | 日時 | 附議事項・相談事項 |
|---|---|---|
| 第62回理事会 | 2022年5月27日(金)<br>13:00-14:45 | 附議事項1: 2021年度決算及び監事監査報告<br>附議事項2:2022年度通常総会議案書<br>附議事項3: 規程等改訂について(役員報酬規程、検定試験委員会要項)<br>附議事項4: 倫理委員会開催までのプロセスについて<br>附議事項5:理事会のガバナンスの見直しについて |
| 第63回理事会 | 2022年6月17日(金)<br>19:30- | 附議事項1：代表理事・副代表理事・常務理事の互選<br>附議事項2：合同会社喜代七への業務委託について |
| 第64回理事会 | 2022年9月9日(金)<br>13:00-14:00 | 附議事項1: ファンドレイジングに関する倫理委員会規程案<br>附議事項2:コンプライアンス委員の選定について |
| 第65回理事会 | 2022年11月28日(金)<br>13:00-14:30 | 相談事項1:協会の中期的な方向性について<br>相談事項2:理事・監事とのコミュニケーション方法いついて |

| | | |
|---|---|---|
| | | 報告事項1: 下半期の計画と財務状況<br>報告事項2: 寄付規制法案(仮称)の状況の共有<br>報告事項3: 倫理委員会で扱った倫理関連の件のご報告 |
| 書面議決 | 2023年1月27日～2月2日 | 附議事項：会員規程の一部変更について |
| 第66回理事会 | 2023年3月17日(金)<br>13:00-14:30 | 附議事項1:2022年度事業報告、2023年度暫定事業計画 |

<表6＞理事懇談会

| | 日時 | 内容 |
|---|---|---|
| 第1回理事懇談会<br>オンライン開催 | 2022年7月19日(金)<br>15:00-17:00 | 理事・監事、事務局スタッフの現在地の確認 |
| 第2回理事懇談会<br>ハイブリッド開催 | 2022年9月9日(金)<br>14/15-17:30 | ファンドレイジンを取り巻く環境において、気になっている課題についてのディスカッション |

<表7>コンプライアンス委員会

| | 日時 | 内容 |
|---|---|---|
| 第1回 | 2022年10月5日(水)<br>16:0-17:00 | コンプライアンス関連規程の確認と組織におけるコンプライアンスの目的に関するディスカッション |
| 第2回 | 2023年3月14日(火)<br>11:00-12:00 | ヒヤリハット案件の共有<br>コンプライアンス規程の見直し |

◇メディア掲載実績

2023年

・ 2月 1日 読売新聞、「寄付学習 寄付先選び 社会課題学」

2022年

・12月26日 公益財団法人助成財団センター・オピニオン誌、「巻頭言 寄付月間に寄せて」

・12月 2日 中日新聞・東京新聞、「くらしの中から考える 寄付」

・11月15日 ABEMA Prime、「ベゾス氏、財産の大半寄付 アマゾン創業者約17兆円」

・ 8月11日 日本経済新聞、「ふるさと納税 問われる活用力(中) 山小屋・ローカル線支援に」

・ 8月 8日 日本経済新聞、「ネットで寺社に寄付拡大 法隆寺1.5億円、景観整備」

・ 6月13日 産経新聞、「コロナ禍とウクライナ侵攻で日本の寄付文化に変化 「助け合い」に広がり」

# 2022年度 収支決算報告

## 活　動　計　算　書

[税込]（単位：円）

特定非営利活動法人日本ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞ協会　　自 2022年 4月 1日　至 2023年 3月31日

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【経常収益】 | | | |
| 【受取会費】 | | | |
| 運営会員受取会費 | 1,344,000 | | |
| 賛同会員受取会費 | 29,374,000 | 30,718,000 | |
| 【受取寄付金】 | | | |
| 受取一般寄付金 | 5,592,100 | | |
| 寄付教育推進寄付 | 3,877,502 | | |
| ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞｽｸｰﾙ奨学金寄付 | 480,000 | 9,949,602 | |
| 【受取助成金等】 | | | |
| 受取助成金 | 22,955,435 | | |
| 受取補助金 | 6,307,000 | 29,262,435 | |
| 【事業収益】 | | | |
| 事業　収益 | | 168,159,384 | |
| 【その他収益】 | | | |
| 受取　利息 | 426 | | |
| 雑　収　益 | 3,200 | 3,626 | |
| 経常収益　計 | | | 238,093,047 |
| 【経常費用】 | | | |
| 【事業費】 | | | |
| （人件費） | | | |
| 給料　手当(事業) | 41,743,676 | | |
| 役員　報酬(事業) | 6,407,700 | | |
| 補助作業者給与 | 2,991,458 | | |
| 通　勤　費(事業) | 251,431 | | |
| 法定福利費(事業) | 6,721,591 | | |
| 人件費計 | 58,115,856 | | |
| （その他経費） | | | |
| 売上　原価 | 969,170 | | |
| 業務委託費(事業) | 98,631,395 | | |
| 諸　謝　金 | 8,484,189 | | |
| 印刷製本費(事業) | 462,752 | | |
| 会　議　費(事業) | 15,645 | | |
| 広告宣伝費(事業) | 849,300 | | |
| 旅費交通費(事業) | 2,186,892 | | |
| 通信運搬費(事業) | 20,351 | | |
| 水道光熱費(事業) | 236,179 | | |
| 地代　家賃(事業) | 3,653,116 | | |
| 会　場　費(事業) | 524,010 | | |
| 減価償却費(事業) | 146,666 | | |
| 諸　会　費(事業) | 100,000 | | |
| 租税　公課(事業) | 5,379,600 | | |
| 研　修　費(事業) | 139,500 | | |
| 支払手数料(事業) | 11,000 | | |
| 支払寄付金(事業) | 3,700,000 | | |
| 雑　　費(事業) | 952,833 | | |
| その他経費計 | 126,462,598 | | |
| 事業費　計 | | 184,578,454 | |
| 【管理費】 | | | |
| （人件費） | | | |
| 給料　手当 | 7,540,475 | | |
| 役員　報酬 | 2,892,300 | | |
| 補助作業者給与 | 908,747 | | |
| 退職給付費用 | 228,000 | | |
| 通　勤　費 | 55,758 | | |
| 法定福利費 | 1,490,591 | | |
| 福利厚生費 | 571,734 | | |
| 人件費計 | 13,687,605 | | |
| （その他経費） | | | |
| 印刷製本費 | 22,134 | | |

# 活　動　計　算　書

［税込］（単位：円）

特定非営利活動法人日本ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞ協会　　自 2022年 4月 1日　至 2023年 3月31日

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会　議　費 | 160,372 | | |
| 旅費交通費 | 453,257 | | |
| 業務委託費 | 16,070,555 | | |
| 研　修　費 | 338,060 | | |
| 通信運搬費 | 2,246,476 | | |
| 備品消耗品費 | 430,195 | | |
| 修　繕　費 | 46,425 | | |
| 水道光熱費 | 56,146 | | |
| 地代　家賃 | 868,412 | | |
| 広告宣伝費 | 126,697 | | |
| 新聞図書費 | 19,656 | | |
| 減価償却費 | 784,079 | | |
| 保　険　料 | 3,478 | | |
| 諸　会　費 | 706,844 | | |
| 租税　公課 | 130,500 | | |
| 支払手数料 | 7,517,902 | | |
| 支払　利息 | 158,493 | | |
| 雑　　費 | 50,365 | | |
| その他経費計 | 30,190,046 | | |
| 管理費　計 | | 43,877,651 | |
| 経常費用　計 | | | 228,456,105 |
| 当期経常増減額 | | | 9,636,942 |
| 【経常外収益】 | | | |
| 経常外収益　計 | | | 0 |
| 【経常外費用】 | | | |
| 経常外費用　計 | | | 0 |
| 税引前当期正味財産増減額 | | | 9,636,942 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | | 70,000 |
| 当期正味財産増減額 | | | 9,566,942 |
| 前期繰越正味財産額 | | | 71,925,592 |
| 次期繰越正味財産額 | | | 81,492,534 |

# 貸　借　対　照　表

特定非営利活動法人日本ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞ協会　　［税込］（単位：円）
全事業所　　2023年 3月31日 現在

| | | | |
|---|---|---|---|
| 《資産の部》 | | | |
| 【流動資産】 | | | |
| （現金・預金） | | | |
| 現　　金 | 156,430 | | |
| 普通　預金 | 17,902,223 | | |
| 現金・預金 計 | 18,058,653 | | |
| （売上債権） | | | |
| 未　収　金 | 64,933,665 | | |
| 売上債権 計 | 64,933,665 | | |
| （棚卸資産） | | | |
| 棚卸　資産 | 7,136,702 | | |
| 棚卸資産　計 | 7,136,702 | | |
| 流動資産合計 | | 90,129,020 | |
| 【固定資産】 | | | |
| （有形固定資産） | | | |
| 建物附属設備 | 204,205 | | |
| 什器　備品 | 101,237 | | |
| 有形固定資産　計 | 305,442 | | |
| （無形固定資産） | | | |
| ソフトウェア | 16,265,334 | | |
| 無形固定資産　計 | 16,265,334 | | |
| （投資その他の資産） | | | |
| 保　証　金 | 1,868,400 | | |
| 退職給付引当預金 | 1,812,000 | | |
| 差入保証金 | 12,155,000 | | |
| 投資その他の資産　計 | 15,835,400 | | |
| 固定資産合計 | | 32,406,176 | |
| 資産の部　合計 | | | 122,535,196 |
| 《負債の部》 | | | |
| 【流動負債】 | | | |
| 未　払　金 | 29,192,448 | | |
| 前　受　金 | 1,036,000 | | |
| 預　り　金 | 466,114 | | |
| 仮　受　金 | 21,700 | | |
| 未払消費税 | 2,832,400 | | |
| 流動負債　計 | | 33,548,662 | |
| 【固定負債】 | | | |
| 長期借入金 | 5,682,000 | | |
| 退職給付引当金 | 1,812,000 | | |
| 固定負債　計 | | 7,494,000 | |
| 負債の部　合計 | | | 41,042,662 |
| 《正味財産の部》 | | | |
| 【正味財産】 | | | |
| 前期繰越正味財産額 | 71,925,592 | | |
| 当期正味財産増減額 | 9,566,942 | | |
| 正味財産　計 | | 81,492,534 | |
| 正味財産の部　合計 | | | 81,492,534 |
| 負債・正味財産合計 | | | 122,535,196 |

# 財務諸表の注記

特定非営利活動法人日本ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞ協会　　2023年 3月31日 現在

【重要な会計方針】
財務諸表の作成は、ＮＰＯ法人会計基準（2010年７月20日　2017年12月12日最終改正　ＮＰＯ法人会計基準協議会）によっています。

(1).棚卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法による原価法
(2).固定資産の減価償却の方法
有形固定資産：定率法
無形固定資産：定額法
(3).消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込み経理方式によっています。

【事業別損益の状況】
事業別損益の状況は以下の通りです。
明細は別紙に出力します。

【使途等が制約された寄付等の内訳】
使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。
当法人の正味財産は81,492,534円ですが、そのうち45,000円は、下記のように使途が特定されています。したがって使途が制約されていない正味財産は81,447,534円です。

[税込]（単位：円）

| 内容 | 期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 期末残高 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 受取寄付金 | | | | | |
| 寄付教育推進寄付 | 0 | 2,116,692 | 2,116,692 | 0 | |
| ファンドレイジング・スクール奨学金 | 245,000 | 480,000 | 680,000 | 45,000 | |
| 受取補助金 | | | | | |
| 港区 | 0 | 6,307,000 | 6,307,000 | 0 | |
| 受取助成金 | | | | | |
| 日本国際協力財団 | 0 | 10,000,000 | 10,000,000 | 0 | |
| 日本寄付財団 | 0 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 | |
| 三菱みらい育成財団 | 0 | 6,000,000 | 6,000,000 | 0 | |
| 子ども宅食ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ | 0 | 1,355,435 | 1,355,435 | 0 | |
| WDF | 0 | 600,000 | 600,000 | 0 | |
| 合計 | 245,000 | 31,859,127 | 32,059,127 | 45,000 | |

【固定資産の増減内訳】

[税込]（単位：円）

| 科目 | 期首取得価額 | 取得 | 減少 | 期末取得価額 | 減価償却累計額 | 期末帳簿価額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (有形固定資産) | | | | | | |
| 建物附属設備 | 639,036 | 0 | 0 | 639,036 | △ 434,831 | 204,205 |
| 什器　備品 | 3,217,770 | 651,530 | 0 | 3,869,300 | △ 3,768,063 | 101,237 |
| (無形固定資産) | | | | | | |
| ソフトウェア | 0 | 16,412,000 | 0 | 16,412,000 | △ 146,666 | 16,265,334 |
| (投資その他の資産) | | | | | | |
| 保　証　金 | 1,868,400 | 0 | 0 | 1,868,400 | 0 | 1,868,400 |
| 退職給付引当預金 | 1,584,000 | 228,000 | 0 | 1,812,000 | 0 | 1,812,000 |
| 差入保証金 | 17,798,000 | 0 | 5,643,000 | 12,155,000 | 0 | 12,155,000 |
| 合計 | 25,107,206 | 17,291,530 | 5,643,000 | 36,755,736 | △ 4,349,560 | 32,406,176 |

【借入金の増減内訳】

[税込]（単位：円）

| 科目 | 期首残高 | 当期借入 | 当期返済 | 期末残高 |
|---|---|---|---|---|
| 長期借入金 | 11,634,000 | | 5,952,000 | 5,682,000 |
| 合計 | 11,634,000 | 0 | 5,952,000 | 5,682,000 |

【役員及びその近親者との取引の内容】
役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

[税込]（単位：円）

| 科目 | 財務諸表に計上された金額 | 内、役員との取引 | 内、近親者及び支配法人等との取引 |
|---|---|---|---|
| （活動計算書） | | | |
| 事業費 | | | |
| 業務委託費 | 98,631,395 | 7,126,960 | |
| 諸　謝　金 | 8,484,189 | 428,000 | |
| 活動計算書計 | 107,115,584 | 7,554,960 | |

【その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項】

支払寄付金は、社会貢献教育事業のプログラム（Learning by Giving）実施上で提供した寄付金である。

# 2022年度　決算
## 事業別損益の状況

特定非営利活動法人日本ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞ協会　　自 2022年 4月 1日　至 2023年 3月31日

[税込]（単位：円）

| 科目 | ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞ大会 | ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞｰ育成事業 | 寄付白書 | 社会貢献教育 | 寄付社会創造事業 | ｿｰｼｬﾙｲﾝﾊﾟｸﾄｾﾝﾀｰ | その他事業(委託等) | 事業合計 | 管理 | 内部取引消去 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【受取会費】 | | | | | | | | | | | |
| 運営会員受取会費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,344,000 | | 1,344,000 |
| 賛同会員受取会費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 29,374,000 | | 29,374,000 |
| 【受取寄付金】 | | | | | | | | | | | |
| 受取一般寄付金 | 300,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 300,000 | 5,292,100 | | 5,592,100 |
| Giving Japan基金 | 0 | 0 | 0 | 3,877,502 | 0 | 0 | 0 | 3,877,502 | 0 | | 3,877,502 |
| ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞｽｶｰﾙ提携金寄付 | 0 | 480,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 480,000 | 0 | | 480,000 |
| 【受取助成金等】 | | | | | | | | | | | |
| 受取助成金 | 0 | 0 | 0 | 11,600,000 | 0 | 11,355,435 | 0 | 22,955,435 | 0 | | 22,955,435 |
| 受取補助金 | 0 | 0 | 0 | 3,000,000 | 3,307,000 | 0 | 0 | 6,307,000 | 0 | | 6,307,000 |
| 【事業収益】 | | | | | | | | | | | |
| 事業　収益 | 11,364,992 | 53,283,247 | 1,287,223 | 826,838 | 4,128,962 | 97,268,122 | 0 | 168,159,384 | 0 | | 168,159,384 |
| 【その他収益】 | | | | | | | | | | | |
| 受取　利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 426 | | 426 |
| 雑　収　益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,200 | | 3,200 |
| 経常収益　計 | 11,664,992 | 53,763,247 | 1,287,223 | 19,304,340 | 7,435,962 | 108,623,557 | 0 | 202,079,321 | 36,013,726 | 0 | 238,093,047 |
| （人件費） | | | | | | | | | | | |
| 給料　手当 | 4,977,699 | 11,286,071 | 295,705 | 7,589,759 | 2,020,650 | 15,573,792 | 0 | 41,743,676 | 7,540,475 | | 49,284,151 |
| 役員　報酬 | 93,000 | 93,000 | 0 | 1,395,000 | 1,571,700 | 3,255,000 | 0 | 6,407,700 | 2,892,300 | | 9,300,000 |
| 補助作業者給与 | 382,220 | 202,811 | 0 | 830,744 | 0 | 1,575,683 | 0 | 2,991,458 | 908,747 | | 3,900,205 |
| 退職給付費用 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 228,000 | | 228,000 |
| 通　勤　費 | 26,808 | 56,939 | 1,454 | 48,256 | 17,661 | 100,313 | 0 | 251,431 | 55,758 | | 307,189 |
| 法定福利費 | 716,665 | 1,522,181 | 38,864 | 1,290,030 | 472,135 | 2,681,716 | 0 | 6,721,591 | 1,490,591 | | 8,212,182 |
| 福利厚生費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 571,734 | | 571,734 |
| 人件費計 | 6,196,392 | 13,161,002 | 336,023 | 11,153,789 | 4,082,146 | 23,186,504 | 0 | 58,115,856 | 13,687,605 | 0 | 71,803,461 |
| （その他経費） | | | | | | | | | | | |
| 期首棚卸高 | 0 | 0 | 5,956,426 | 284,304 | 1,199,850 | 0 | 5,292 | 7,445,872 | 0 | | 7,445,872 |
| 仕　入　高 | 0 | 0 | 0 | 660,000 | 0 | 0 | 0 | 660,000 | 0 | | 660,000 |
| 期末棚卸高 | 0 | 0 | △ 5,899,768 | △ 223,735 | △ 1,007,907 | 0 | △ 5,292 | △ 7,136,702 | 0 | | △ 7,136,702 |
| 業務委託費 | 5,056,026 | 16,151,690 | 472 | 10,230,672 | 9,350,703 | 57,841,832 | 0 | 98,631,395 | 16,070,555 | | 114,701,950 |
| 諸　謝　金 | 0 | 3,684,520 | 0 | 622,600 | 531,569 | 3,645,500 | 0 | 8,484,189 | 0 | | 8,484,189 |
| 印刷製本費 | 360 | 388,519 | 0 | 0 | 620 | 73,253 | 0 | 462,752 | 22,134 | | 484,886 |
| 会　議　費 | 0 | 3,000 | 0 | 1,095 | 11,550 | 0 | 0 | 15,645 | 160,372 | | 176,017 |
| 広告宣伝費 | 3,300 | 0 | 0 | 577,000 | 269,000 | 0 | 0 | 849,300 | 126,697 | | 975,997 |
| 旅費交通費 | 42,620 | 335,438 | 0 | 970,778 | 493,977 | 344,079 | 0 | 2,186,892 | 453,257 | | 2,640,149 |
| 通信運搬費 | 0 | 5,296 | 0 | 460 | 0 | 14,595 | 0 | 20,351 | 2,246,476 | | 2,266,827 |
| 備品消耗品費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,081,725 | | 1,081,725 |
| 修　繕　費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 46,425 | | 46,425 |
| 新聞図書費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19,656 | | 19,656 |
| 水道光熱費 | 15,228 | 46,531 | 580 | 37,331 | 19,814 | 116,695 | 0 | 236,179 | 56,146 | | 292,325 |
| 地代　家賃 | 235,537 | 719,724 | 8,976 | 577,410 | 306,479 | 1,804,990 | 0 | 3,653,116 | 868,412 | | 4,521,528 |
| 会　場　費 | 0 | 210,952 | 0 | 230,258 | 0 | 82,800 | 0 | 524,010 | 0 | | 524,010 |
| 減価償却費 | 0 | 0 | 0 | 146,666 | 0 | 0 | 0 | 146,666 | 132,549 | | 279,215 |
| 保　険　料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,478 | | 3,478 |
| 諸　会　費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100,000 | 0 | 0 | 100,000 | 706,844 | | 806,844 |
| 租税　公課 | 351,365 | 1,647,327 | 39,796 | 205,763 | 127,464 | 3,007,885 | 0 | 5,379,600 | 130,500 | | 5,510,100 |
| 研　修　費 | 0 | 11,000 | 0 | 0 | 0 | 128,500 | 0 | 139,500 | 338,060 | | 477,560 |
| 支払寄付金 | 0 | 0 | 0 | 3,700,000 | 0 | 0 | 0 | 3,700,000 | 0 | | 3,700,000 |
| 支払手数料 | 0 | 0 | 11,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11,000 | 7,517,902 | | 7,528,902 |
| 支払　利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 158,493 | | 158,493 |
| 雑　　費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 952,833 | 0 | 952,833 | 50,365 | | 1,003,198 |
| その他経費計 | 5,704,436 | 23,203,997 | 117,482 | 18,020,602 | 11,403,119 | 68,012,962 | 0 | 126,462,598 | 30,190,046 | 0 | 156,652,644 |
| 経常費用　計 | 11,900,828 | 36,364,999 | 453,505 | 29,174,391 | 15,485,265 | 91,199,466 | 0 | | 43,877,651 | 0 | 228,456,105 |
| 当期経常増減額 | △ 235,836 | 17,398,248 | 833,718 | △ 9,870,051 | △ 8,049,303 | 17,424,091 | 0 | 17,500,867 | △ 7,863,925 | 0 | 9,636,942 |

# 財　産　目　録

特定非営利活動法人日本ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞ協会　　［税込］（単位：円）
全事業所　　2023年 3月31日 現在

《資産の部》

| | | |
|---|---|---|
| 【流動資産】 | | |
| （現金・預金） | | |
| 現　　金 | 156,430 | |
| 普通　預金 | 17,902,223 | |
| 住信SBIネット銀行 | (14,474,332) | |
| 三菱UFJ１ | (3,178,194) | |
| 三菱UFJ２ | (61,461) | |
| ゆうちょ銀行 | (2,541) | |
| 郵便振替 | (1,178,274) | |
| 中国銀行 | (819,421) | |
| 退職引当 | (△ 1,812,000) | |
| 現金・預金 計 | 18,058,653 | |
| （売上債権） | | |
| 未　収　金 | 64,933,665 | |
| 文化庁 | (9,911,000) | |
| 岡山市　SIB業務委託 | (31,482,000) | |
| B&G財団 | (18,920,000) | |
| 一財）社会的ｲﾝﾊﾟｸﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ・ｲﾆｼｱﾁﾌﾞ | (1,206,100) | |
| 一財）ふくしま百年基金 | (1,320,000) | |
| その他 | (2,094,565) | |
| 売上債権 計 | 64,933,665 | |
| （棚卸資産） | | |
| 棚卸　資産 | 7,136,702 | |
| ジャーナル | (115,662) | |
| 寄付白書 | (4,783,768) | |
| Giving Japan | (1,116,000) | |
| ブックレット | (86,122) | |
| 寄付教育調査報告書 | (6,567) | |
| 社会に貢献する | (91,052) | |
| 遺贈寄付ハンドブック | (410,891) | |
| 社会貢献教育ハンドブック | (126,116) | |
| 社会的投資市場形成に向けたﾛｰﾄﾞﾏｯﾌﾟ | (332,752) | |
| 遺贈寄付 最期のお金の活かし方 | (62,480) | |
| 社会的インパクトとは何か？ | (5,292) | |
| 棚卸資産　計 | 7,136,702 | |
| 流動資産合計 | | 90,129,020 |
| 【固定資産】 | | |
| （有形固定資産） | | |
| 建物附属設備 | 204,205 | |
| パーテーション | (128,386) | |
| 電気工事 | (34,139) | |
| 電気配線電話工事 | (41,680) | |
| 什器　備品 | 101,237 | |
| コピー機 | (1) | |
| 電話回線 | (1) | |
| 看板 | (8,820) | |
| パソコン9台 | (92,415) | |
| 有形固定資産　計 | 305,442 | |
| （無形固定資産） | | |
| ソフトウェア | 16,265,334 | |
| 決済システムとマイページ | (12,012,000) | |
| 寄付カードゲーム開発 | (4,253,334) | |
| 無形固定資産　計 | 16,265,334 | |
| （投資その他の資産） | | |
| 保　証　金 | 1,868,400 | |
| 退職給付引当預金 | 1,812,000 | |
| 差入保証金 | 12,155,000 | |
| 投資その他の資産　計 | 15,835,400 | |

# 財　産　目　録

特定非営利活動法人日本ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞ協会　　［税込］（単位：円）
全事業所　　2023年 3月31日 現在

| | | | |
|---|---|---|---|
| 固定資産合計 | | 32,406,176 | |
| 資産の部　合計 | | | 122,535,196 |
| | 《負債の部》 | | |
| 【流動負債】 | | | |
| 未　払　金 | 29,192,448 | | |
| 経費 | (529,679) | | |
| 岡山市社会福祉協議会 | (5,250,024) | | |
| グロップ | (5,485,000) | | |
| パソナ | (5,494,405) | | |
| 粉川一郎 | (1,200,000) | | |
| 株式会社TAM | (7,535,000) | | |
| その他 | (3,698,340) | | |
| 前　受　金 | 1,036,000 | | |
| 会費 | (1,036,000) | | |
| 預　り　金 | 466,114 | | |
| 従業員源泉 | (148,535) | | |
| 報酬等所源泉 | (95,003) | | |
| 雇用保険料 | (37,776) | | |
| 住民税 | (184,800) | | |
| 仮　受　金 | 21,700 | | |
| 未払消費税 | 2,832,400 | | |
| 流動負債　計 | | 33,548,662 | |
| 【固定負債】 | | | |
| 長期借入金 | 5,682,000 | | |
| 中国銀行@438000 | (2,182,000) | | |
| 金融公庫@350000 | (3,500,000) | | |
| 退職給付引当金 | 1,812,000 | | |
| 固定負債　計 | | 7,494,000 | |
| 負債の部　合計 | | | 41,042,662 |
| 正味財産 | | | 81,492,534 |

# 監査報告書

認定特定非営利活動法人
日本ファンドレイジング協会
代表理事　鵜尾雅隆　様

私たちは、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会の2022年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の業務監査及び会計監査を行った。

理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し、必要と認める場合には質問を行った。また、財産の状況に関する監査に当たっては、現地監査と電子データの事前送付の方法により、財務諸表等(活動計算書、貸借対照表、財務諸表の注記及び財産目録)と帳簿や証拠書類等との照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、理事の業務施行は、法令、定款及び事業計画に基づき適正に執行され、不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないことが認められた。

また法人の財産状況は、NPO法人会計基準に準拠して、財務諸表等に適正に表示されているものと認められた。

以上のとおり報告する。

2023年5月9日

監事　　相浦圭太

同　　工藤敦子